



東京大学グローバルリーダー育成プログラム  
トライリンガル・プログラム 2020



# TLPごあいさつ



## 国際感覚を養い、多様性を活力とする協働を

東京大学総長 五神 真

現代社会は、資源の枯渇、環境破壊、世界金融不安、地域間の格差拡大など、さまざまな地球規模の問題を抱えています。人類の存続を脅かしかねないこれらの深刻な問題を解決するために、地域や国境、文化や言語を越えてさまざまな人々が力を出し合う、すなわち「多様性を活力とする協働」が今ほど必要とされている時はありません。東京大学では、異なった背景や価値観をもつ世界中の人々と共に生き、共に働く力を持った人材を育成するために、国際感覚を鍛える教育を目指しています。トライリンガル・プログラム(TLP)は、まさにそうした国際的な場で活躍する人材を育てるプログラムです。



## 国際総合力を高めるために

グローバルリーダー育成プログラム推進室長 藤原 帰一

世界のなかで自分を捉え、世界のなかで活躍できる人。そんな人、国際総合力を持つ人を育てるのがTLPです。「東京大学ビジョン2020」には、「学生の国際感覚を鍛えることによって、世界の多様な人と共に生き、共に働く力を持った人材の育成」に力を入れていると書かれています。世界の多様な人と共に生き、共に働く力のことを私たちは「国際総合力」と呼んでいます。グローバルリーダー育成プログラム (GLP) は、高度な国際総合力を身につけた人材の育成を目指しており、トライリンガル・プログラム (TLP) で集中的に鍛える高度なコミュニケーション能力はそのために欠かせないスキルのひとつです。多くの意欲ある学生がTLPに参加し、現代世界の様々な場で活躍できる有為な人材へと成長してくれることを願っています。



## 新しい「学び」の経験へ

グローバルコミュニケーション研究センター長 原 和之

ことばを学ぶということ、それは新たに一つのものの見方を学ぶということです。それは新しい世界を開いてくれると同時に、それまでの世界の見方が、一定の視点に制約されていたということに気づかせてくれます。そして複雑で急速に変化する世界をとらえる世界的な視野を身につけるためには、つねに複数の視点が必要になる。そうした考え方のもと、東京大学では入学する皆さんに、複数の外国語を身につけることを求めてきました。

皆さんの多くは、小さい頃に身につけた母語に加えて、中等教育の始まる前後からすでに外国語を学習されてきたと思います。ただTLPに参加される皆さんが取り組もうとしているのは、そうした外国語学習を、単にもう一度繰り返すということでは決してありません。自ら選んだ言語を、実際の運用を目指して、ごく短い期間に習得しようとするこの挑戦は、これまでになく濃密な経験になることと思います。この新しい「学び」の経験が皆さんにとって実り多いものとなりますよう、心より願っています。

# TLP(トライリンガル・プログラム)とは



## Trilingual Program

東京大学トライリンガル・プログラム (TLP) は、グローバルリーダー育成プログラム (GLP) の一環として、2013年度に教養学部前期課程 (1・2年次) に発足しました。

この前期課程のTLPは、プログラムの履修を希望し、なおかつ入学時に一定レベルの英語力を有すると認められる学生 (上位一割程度) を対象とするもので、日本語と英語に加えてもう一つの外国語の運用能力を集中的に鍛えるために設けられています。当初は中国語のみの展開でしたが、2016年度からはドイツ語、フランス語、ロシア語、2018年度からは韓国朝鮮語、2019年度からはスペイン語でも展開された、今まさに成長しつつあるプログラムです。

各言語には定員枠が設けられていますが<sup>※1</sup>、入学時にはTLPに参加していない学生にも Semester毎に参加するチャンスがあり、一定のレベルに達している学生にひろく開かれた制度となっています。履修期間は2年次の5 Semester (第1 Semester) まで1年半で、修了要件を満たした履修生には、修了証が授与されます。

また、TLPでは、授業で学んだ言語の実践力を高め、また、言語の背景にある文化や習慣を理解するために、夏休みや春休みに現地で語学研修や学生交流などを行っています。<sup>※2</sup>

言語や時期によって参加人数は異なりますが、10名から20名程度の選抜された学生が、企業等からの寄附による奨学金を受けて派遣されます。

グローバル化が急速に進んだ現代の世界においては、高度な英語力と少なくとも1つの外国語の運用能力が国際的に活躍する人材に求められることが多くなっています。このような人材の育成を目指してTLPはさらなる成長と飛躍を続けています。

※1 2020年度の各言語の定員枠は以下のとおり。

中国語60人、ドイツ語40人、フランス語40人、ロシア語20人、韓国朝鮮語20人、スペイン語40人程度。

※2 これまで、ドイツ語ではボンやケルン、フランス語ではパリ、アンジェ、ブリュッセル、リヨン、ロシア語ではサンクト・ペテルブルグ、韓国朝鮮語ではソウルで実施しています。中国語では台湾、南京での研修に加え、後期課程生を対象にした北京上級研修プログラムを開催しています。また、2020年度以降、スペイン語でも実施されます。

詳しくはTLPウェブサイトをご覧ください。

<http://www.cgcs.c.u-tokyo.ac.jp/tlp/index.html>

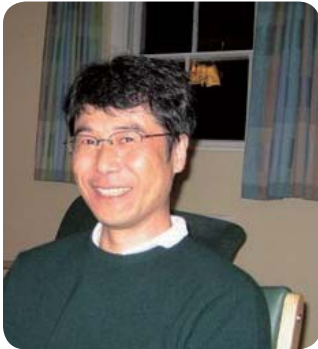


# ドイツ語

## TLP授業の POINT

多様なドイツ語を体験し、系統だった学習を通して高いレベルに到達する授業が行われています。

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 森 芳樹



### [Profile]

前期では主にドイツ語を教え、後期では意味論・語用論入門、大学院では形式意味論の必修授業などを担当しています。理論言語学、ドイツ語学と言語対照比較を軸に研究しています。ドイツのドイツ語研究所の国際顧問を務めています。

2016年度にスタートしたTLPドイツ語では、必修授業は通常の初修クラスで受講してもらいます。残りのTLP用演習とTLP用インテンシヴ計3コマの総合科目で、多様なドイツ語を体験してもらい、同時に系統だった学習で、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に準じた一定のレベルに到達してもらうことを目標にできました。そのために、通常の一列・二列で共通教科書として使用する『Einblicke』をより多角的に、そして入念に扱うことで、必修科目としての初修外国語と関連した形でドイツ語の勉強を深めましたし、他方、ヨーロッパ言語共通参照枠に準拠してドイツで製作された教科書も使用しながら、聞く、話す、読む、書くというすべての技能的側面で運用能力を高めてきました。ドイツ語母語話者の教員によるアクチュアルなドイツ語と密度の濃い授業は、文系・理系を問わずTLPに参加する学生たちに大いに刺激を与えていると思います。

TLPの魅力はしかし、集中的な訓練のもとならず成果をさらに越えたところにあるのかもしれない。「～語を学ぶ」から「～語で学ぶ」

に歩を進めるために、映画や文学作品、ドイツで話題になったイギリスの著作のドイツ語と英語の読み比べなどに費やす時間も取りました。時間外ともなれば、ドイツ語版しゃべらんちを学生自ら実施したり、駒場キャンパスのドイツ・ヨーロッパ研究センター（DESK）による講演会を聴きに行ったり、どこそでドイツ祭があるといえばコースの学生たちで出かけてもいるようです。そして年末の、駒場のドイツ語に関するドイツ語圏出身教員が総出で企画したクリスマスパーティーは、厳かな雰囲気も愉快的な笑いもある、とても和やかなものでした。

これまで各方面からご協力をいただきながら、夏季と冬季に、国際研修の枠で海外研修を行ってきました。夏季は例年ボンでの開催ですが、2018年度から冬季はケルン大学で実施しています。ドイツの社会や歴史や、風景や街、そしてなにより同世代の学生たちをはじめとする人に、目を見開いていく絶好の機会になっているようです。

## 取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列*	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講



# TLPドイツ語研修

大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構ドイツ・ヨーロッパ研究センター 平松 英人



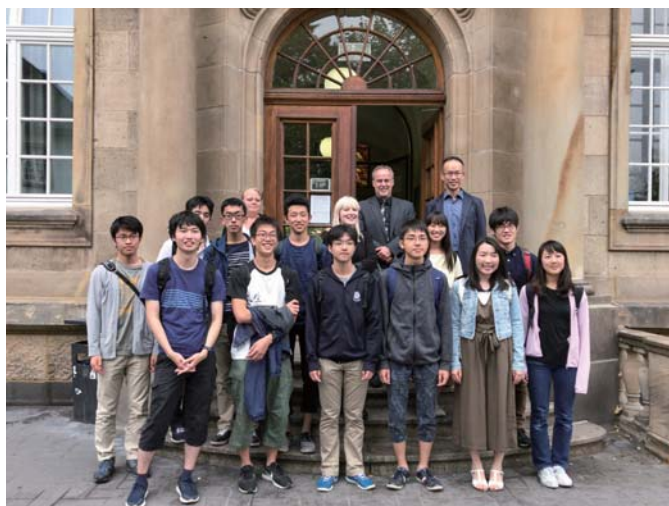
ドイツ人学生との異文化交流ワークショップ



ドイツ語授業の様子



ドイツ語ガイドツアー-民主主義への道  
(ボン連邦議事堂前でガイドによる解説を聞く)



ボン大学歴史学研究所前にて

2016年に入ると、TLPドイツ語履修者を対象としたボンでの語学研修の話が思いがけず持ち上がりました。それから図らずも1年のうちに2度のボン研修を実施することができ、履修者のほぼ全員に参加する機会が与えられたことは大変幸運でした。全参加者にとって初めてのドイツ訪問であり、なかには初めての海外経験となる参加者もいました。幸い夏冬ともに天候にも恵まれ、学生たちにとっては明るく開放的なドイツの一面も強く印象に残ったようです。2週間の研修期間のあいだ、平日は午前中のドイツ語集中授業、午後の講演会やワークショップ、博物館等の見学ツアー、週末はケルンやアーヘンなどへの遠足と休む間もなくプログラムが組まれていた中で、大いに学び、大いに遊び、そして大いに食べては屈託なく笑う、タフで個性豊かな若者たちの姿が非常に印象的でした。最初はどこことなく頼りない様子だった学生たちが、若者ら

しい柔軟な感性で日本とは異なる多様な生活様式や価値観を真つ正面から受け止め、短期間に多くものを吸収し成長する姿を間近に目にすることができたのは、引率者冥利に尽きる経験だったと思います。



ドイツ学術交流会にて

## 受講生の声

英語を学んだ時より圧倒的に速くドイツ語に慣れることができました。



以前海外に行ったとき、英語よりも現地の言葉で話しているときの方が人々が楽しそうに見えました。そのとき英語以外の言語も使えるようになりたいと思ったので、TLPドイツ語に参加することにしました。

TLPドイツ語のメンバーのクラスはバラバラですが、週3時間は一緒に授業を受けます。特に必修科目の多い理系の学生にとって授業数が増えるのは大変でしたが、各自のクラスで受けるも

のと合わせて週4から5コマドイツ語と触れることで、英語を学んだ時より圧倒的に速くドイツ語に慣れることができました。日本人・ドイツ人の先生どちらとも距離が近いのもTLPの魅力だと思います。

1年生の2月には、ボンでのドイツ語研修に参加しました。約2週間、平日午前は少人数でドイツ語の授業を受けて午後は主に英語での講義や博物館見学をし、週末には電車に1、2時間乗り小旅行をしました。研修の間は文法力や語彙力の強化よりもドイツ語でのコミュニケーションに

理科一類・2年 石井 秀昌 (2018年度)

慣れることに重きが置かれていました。食事や買い物をするだけでもドイツ語を読み聞き話す必要があり、研修を通してドイツ語を使うことへの抵抗がかなり減りました。

TLPメンバーとは比較的少人数で多くの時間を共にするので仲良くなることができます。TLPで一つのコミュニティを得られたことはドイツ語学習だけでなく大学生活全体にプラスに働いています。今後もドイツの人と楽しく話せるようになることを目標にドイツ語を学んでいきます。

# フランス語

## TLP授業の POINT

トライリンガル? 国際的な競争力?  
まあそんなに肩に力を入れず、せっかくのプログラム  
なので気楽にトライしてみましょう。

大学院総合文化研究科・超域文化科学 専攻 桑田 光平



### [Profile]

フランスの文学や芸術を研究しています。5年半ほどフランスに留学していましたが、別にフランス語が上手なわけではありません。フランス（語）に限らず外国（語）との付き合いがあり続けられる人生というのはかなり面白いことに、この年齢になって気づきました。

これまでTLPフランス語の授業を2年間（2017～2018年度）担当してきましたが、教員（私だけかもしれませんが）からすれば、とても楽しく、刺激的な時間を学生さんたちと過ごすことができました。通常のフランス語の授業に加えて、週3コマの「TLPインテンシヴ」・「TLP演習」の授業（ネイティブ教員による2コマと日本人教員による1コマ）は確かにハードといえますが、まずは楽しい授業となることを教員側は心がけています。この場合、「楽しい」という言葉が意味するのは、学生さんが間違いや失敗を気にせず、自由に主体的に、フランス語でおしゃべりできる環境であるということです。教員が一方向的に文法や語彙や言い回しを教えるというのではなく、学生同士である特定の主題について自由に話してもらうことがひとつの理想的な授業のかたちです。もちろん、教員はときどきそこに介入し、間違いを直したり、大切な文法事項や使えそうな表現などを教えたりしますが、学生さんたちの自発性を最大限尊重し、みなさんが活発に議論することを促進するファシリテーターの役割であることが重要だと思っています。これまでの経験から言えば、1年生のAセメスターには学

生さんたちがグループごとに活発に議論することが多かれ少なかれ実現されています。また、会話力だけでなく、大学での外国語教育においてなかなか訓練することが難しい筆記能力も、適宜出される宿題と教員による添削によって、間違いなく伸びていきます。教科書に関して言えば、単に語学の能力を上げるためのものではなく、フランス語圏の文化や社会や歴史を理解する上で必要不可欠なトピックが取り上げられていますので、語学力をあげながら国際的な感覚を身につけられます。

このような充実した授業に加えて、駒場では「フランス語でしゃべらんち」という企画もあります。ネイティブ教員らとともにランチをしながら、授業中には聞きそびれたこと、フランス語圏における文化や社会のこと、あるいは、なんでもない日常のことについて、くだけた雰囲気の中フランス語で会話をする企画です。もちろん参加は義務ではありません。国際的な競争力を身につけるとか、トライリンガルになるとか大仰に構えず、母国語の外にほんの少し足を踏みだしてみたいかがでしょうか。きっと面白い光景が待っていると思います。

## 取得すべき単位数

（セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない）

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列*	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講



# TLPフランス語研修

大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻 寺田 真彦



アンジェでの研修

TLPフランス語の海外研修では、フランス語はもとより英語や日本語を意識的・多層的に用いる工夫を凝らしています。単なる言語習得ではなく、フランスの大学生との交流や高等研究機関・省庁で

のレクチャーおよび発表を通じて、社会生活、研究、行政といった幅広い場面での三言語使用の機会を設けています。

たとえば、同世代の大学生との交流では、日本語を学ぶ仏学生と交歓会を行うだけではなく、同じテーマでの発表やディベートで日仏両言語での意見交換を行います。また日本語を学ぶ授業に参加して「外から見た日本」を実感し、母語として使われる日本語に多角的な視点を持てるようにしています。一方で研究所や省庁では高いキャリアを持つ研究者や行政官と対話を持つことで、質の高い言語を用いる重要性を実感できるようにしています。

高いレベルの言語使用を通じて、将来さまざまな分野で活躍するTLP修了生の期待に応えられる海外研修となっています。



ブリュッセル自由大学の学生との交流



ルーヴル美術館訪問



ブリュッセル自由大学での発表



アンジェ・西カトリック大学にて

## 受講生の声

### 新しい言語を学び世界が変わる経験は想像以上に素敵でした



私は高校以前から教科としての英語が好きでしたが、英語を通して人と交流したことがほとんどありませんでした。実践的に外国語を操れる人に憧れていたところ、TLPの存在を知り、東大に合格できたら参加したいと思っていました。実際に履修許可が下りたときは本当に嬉しかったのを覚えています。

授業はフランス語で行われます。初回授業の開始から先生がフランス語で話し始めた時は驚きました。そして、フランスの文化も関係しているでしょうが、とにかく話すこと、様々なことについて自分の意見を表現することが求められまし

た。私は外国語でのコミュニケーションに慣れておらず、また積極的に発言する方ではなかったので、初めは授業に出るだけで緊張してしまい苦労しました。しかし、新しい言語を赤ん坊のように学べる授業はいつも楽しく新鮮で、熱意ある素晴らしい先生と仲間恵まれ、学習意欲は高まるばかりでした。授業外でも同級生とフランス語で会話やラインをしたり、フランスのラジオを聞いたり、フランス語を浴びてはアウトプットする日々でした。するとフランス語が脳内の場所を占め始め、フランス語が夢に出てきたり、会話の際に自然とフランス語が流れ出す感覚になりました。また、フランス語を使う時は、不思議と頭がフランス人に近づく感じがあり、自己表現

理科三類・2年 度會 亜衣子 (2018年度)

への姿勢も変わっていきました。

二度のフランス研修は貴重な経験です。フランス語をある程度習得した上で訪仏できて、フランスの理解が一層深まりました。また、日本で培ってきたフランス語がちゃんと現地でも通用し々と直接交流できたことには、衝撃に近い喜びを感じました。そして、一定期間生きたフランス語に身を晒すことで、語学力は飛躍的に伸びました。

TLPに取り組んだ一年半は、私にとって言葉で言い尽くせないほど大切です。医学を志す私にとって、フランス語は将来に直結しないかもしれませんが、TLPで得た、言語習得を通して自分や世界が新しい色に染まる経験は、必ず自分の身になり役立ってくれると思います。

# 中国語

## TLP授業の POINT

これまでに積み重ねてきた知性、教養、表現力が  
中国語で発揮される授業が展開されています。

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター 白 春花



### [Profile]

人はどのように文を処理しているのか、特にバイリンガル話者がどのように第三言語を習得し、文を処理しているのか、実験心理学的手法を用いて調査しています。

私がTLPの中国語教育に携わってすでに五年目になりました。この五年間では、主に一二年生を対象とした授業をしてきましたが、後期課程の教育にも携わりました。授業中は、中国語を話すことより中国語で話すこと、つまり中国語の運用能力を伸ばすことに重点を置いています。

一年生は、発音を習っている時期から自分の意思を中国語で発信しようとする学生が多いです。それが授業中における鋭い質問や会話、作文の中で伝わってきます。そして、一年次のAセマスターからペアを組んで中国語で問題解決に挑戦したり、グループでインタビューにチャレンジしたりします。これは、まさに、これまでに積み重ねてきた知性や教養、日本語なり英語なりでの表現力といった、彼らがすでに持っているもので、中国語を道具とした高い表現力が発揮されたのであろうと多大に評価しています。

後期課程では、私は、上級中国語および「東アジア教養学」の授業を担当しています。上級中国語では、中国語で書かれた新聞記事やニュースを講読し、受講生に中国語で作文、

発表あるいはディベートしてもらったりします。私の専門領域は「心理言語学」ですので、中国語で行うこの講義では、言語の処理はどのような仕組みからなるのか、また、バイリンガルあるいはトライリンガル話者はどのように文を処理しているのか、という問いから始まり、それに関する最先端の研究成果を学生に中国語で発表してもらうことで、中国語で高度な専門知識を身につけるだけでなく、適宜議論できることを目標としています。さらに、心理言語学で現在主に使われている実験手法を紹介したり、実験室を見学したり、データ収集がどのように行われているのか、具体的にイメージできるようにしています。最後に、今まで身につけてきた知識を自分自身のことと照らし合わせながら、実験案を提出させています。そこで、私が驚いたのは、受講生のみなさんが、実際に中国語で話すときに、日本語より英語の影響が多く現れている原因について、三つの言語の統語的な特徴の類似性の観点からレポートをまとめたことです。私はこれからも、こうした学生の可能性に期待しています。

## 取得すべき単位数

(セマスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているみなさん新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年				2年	
	文科生		理科生		文科生	理科生
	Sセマスター	Aセマスター	Sセマスター	Aセマスター	Sセマスター	Sセマスター
基礎科目 一列・二列	4	2	4	2	—	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	—	—	—	—
総合科目 初級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4	4	—	—
総合科目 初級表現演習 (TLP用) ※1	—	—	(2)	(2)	—	—
総合科目 中級インテンシヴ (TLP用)	—	—	—	—	4	4
総合科目 中級演習 (TLP用) ※2	—	—	—	—	2	(2)
国際研修 サマースクール ※3	—	—	—	—	(2)	(2)
取得すべき単位数 ※3	10	8	8	6	6	4

※1 1年理科生の初級表現演習は任意選択であり、取得すべき単位数は文系より合計4単位少ない

※2 2年理科生の中級演習は任意選択であり、取得すべき単位数は文系より合計2単位少ない

※3 国際研修およびサマースクールは任意選択



# TLP中国語研修

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター・TLP中国語 李彦銘



總統府にて

南京サマースクールでは、20人の参加者が二つのクラスに分けられ、平日の8時から12時まで中国語の授業を集中的に受け、午後は書道や太極拳などの実技や中国哲学、社会に関する講義、それから企業などの見学を行います。「異なる言語・文化の環境に触れる」ということが研修の目的であります。さらに昨年参加した学生はたまたま理系が半分以上を占めて、科挙博物館（江南貢院）、秦淮河、そして總統府や中山陵など、中国の文化史や政治史での重要スポットにも強い興味を示してくれました。歴史と日常の関係性など異なる学科の問題意識に触れる良い機会にもなったかと思えます。また、中国哲学や社会の講義は英語で、南京大学の学生や学生ボランティアとの交流は中国語と英語交じりで行われ、異なる言語で物事を考えることも視野を広げるきっかけとなったに間違いありません。

中国の屈指の「火炉」である南京の地で、8月の3週間を過ごしながらかつたカリキュラムをこなしていくことは決して楽なことではありません。みなさんが自らのコンフォートゾーンから積極的に踏み出そうとする姿勢に感心しました。



「鯉の登龍門」にちなんだ敷居を、みんなで越えよう@科挙博物館



太極拳授業の様子



2017年日本東京大学汉语短期班合影

修了式（写真提供：王前先生）

## 受講生の声

### 中国語を通して知り合えた仲間と見えてきた進路



私がTLP中国語を選択した理由はごく単純で両親にやっておけと言われてたことがきっかけでした。高校卒業時の自分の中国に関する知識は歴史と漢文の教科書で学んだことぐらいだったため、駒場での中国語の授業、駒場で知り合った中国人の友達との交流はとても刺激的でした。中国語の習得はほかの言語に比べると簡単と言われがちですが、自分はわりと苦労した方かと思えます。最初の発音から単語の構成、文章の作り方など、英語や日本語と微妙に違うところがたくさん出てきてついていくのが大変でした。やはりTLPは優秀な生徒が多く集まり、知識をス

ボンジのように吸い取っていきますので、自分は語学習得が向いていないのだろうなと何度も思わされました。そのなかで諦めず続けられたのはやはりTLPを通して知り合えた友達や先生がたのおかげなのだと思えます。

その苦労の甲斐があつてか先学期に北京大学に交換留学へ行くことができ、素晴らしい時間を中国で過ごすことができました。交換留学は大学入学後からの夢でしたし、まだまだ未熟ではあつたものの、TLPで学んだ中国語が生きたと感じることが多かったです。

進学振り分けの際にすごく悩んだのがこのまま理系に行くか、中国語をもっと勉強するために文転するかということでした。ですが、専門分野

### 工学部システム創成学科進学 三谷 伶司

がなければ語学は生きてきませんし、交換留学を通して中国でのIT事業の目覚ましい発展を身近に感じたこともあり、最終的には工学部に進学することにしました。

前期教養学部でのTLPを修了した後も、自分の中国語の勉強はまだまだ始まったばかりだと考え、引き続き、TLPで出会った人々との縁を大切に、中国語の学習を続けています。

最後に、中国語を教え、教養を深めるための豊富な交流プログラムを用意し、TLPをより良いものになろうと日々奮闘してくださっている先生がたに感謝を述べて、筆を擱きたいと思えます。謝謝！

# ロシア語

## TLP授業の POINT

ロシア語は、その覚えることの多さから特に最初の初級段階が重要です。皆さんの学習の牽引役でもあり、サポーターでもあります。

大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻 渡邊 日日



### [Profile]

文化人類学、シベリア民族学、ロシア思想史を研究しています。ロシアでは特にシベリアで1990年代、村落部で長期の民族誌的フィールドワークに携わっていました。ロシア語の文献を読むのは私には空気を吸うほど自然なことです。

TLPロシア語では、TLP生は独自の時間割で一連の授業（1年Sセメスターで文科生は週5コマ、理科生は週4コマ。Aセメスターではそれぞれ4コマ、3コマ）を受講します。教材は全クラス共通教材を用い、アルファベットから始めて初等文法を一通り学習していくのは同じですが、TLP生はネイティブ教員の授業を多く履修することにより、読み書きのみならず口頭コミュニケーション能力をより速く広く培っていきます。ロシア語学習者がつまずきやすい、名詞・形容詞の格変化、アスペクト、アクセントの移動などについて反復練習することにより、強固に基礎固めを行っていきます。2年次ではSセメスターで文科生・理科生ともども3コマ履修し、基礎文法の知識を確かなものとしつつ総合的な力のアップを図り、Aセメ

スターからの専門教育で必要となる幅広い視座を事前に育成します。2年次後半になると、辞書さえあればロシア語の専門論文を解読できるレベルになります。

1991年のソヴィエト連邦崩壊後、ロシアをめぐる環境は激変しました。今世紀に入り、ロシアでも英語圏の影響を強く受け、ロシアからの英語発進力も高まりました。ですが、ロシア語圏特有の文化的、発想的傾向はまだまだ強い独自性を保っています。文理双方の様々な分野で、第一言語・ロシア語・英語の3言語を駆使する人が活躍し、世界を多角的に理解し、既存の枠を超えるイノベーションを創発することが、TLPロシア語の目標となっています。

## 取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列	4	2	-
総合科目 演習 (TLP用) ※	2	2	-
総合科目 初級インテンシヴ (TLP用)	4	4	4
総合科目 ロシア語上級	-	-	2
取得すべき単位数	10	8	6

※ 理科生の演習は任意選択であり、取得すべき単位数は合計4単位少ない



# TLPロシア語研修

大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻 渡邊 日日



ペテルブルグ大学でのロシア語研修

TLPロシア語最初の海外研修ということで悩んだのは行き先でした。世界最大の面積を有するロシア連邦。行き先によって学生たちの印象も大きく変わるでしょう。有力な大学があるところとして、モスクワ、サンクト・ペテルブルグ、ノヴォシビルスク、ウラジオストクが候補に挙がりましたが、結果的に、サンクト・ペテルブルグ大学に受け入れを願ひし、モスクワについては乗り換えのときに見

聞を深めることにしました。ロシア文化の中心地であり、西欧への窓でもあり、第二次世界大戦では激戦地でもあったこの古都で知るべきことはたくさんあります。

文学・音楽から宇宙工学まで、ロシアから学ぶべきことは多岐にわたっています。短い研修期間とはいえ、できる限りいろいろなことに接し、芸術・美術鑑賞、現地の高校生や大学生との交流を企画しています。様々な〈ショック〉から次のさらなる勉学へと、シームレスな流れを整えることが課題です。



演奏会鑑賞のあとで



モスクワを歩く



ロシア国立ワガノフ・バレエアカデミーでの案内風景



エルミタージュ劇場の舞台にて



## 受講生の声

## 言語学習だけじゃない学びをTLPは与えてくれます

東大で言語を学ぶのであればTLPは恵まれた環境でしょう。まず1年のSセメスターでもAセメスターでも、頻繁にロシア語の授業を取るのには初期の言語学習において大きな利点でした。特にロシア語は13人程度と少人数であることも特徴で、このおかげで質問がしやすいだけでなく授業で話す頻度も上がります。実際、TLP受講生と30人ほどで一斉授業を受けている非TLP生のロシア語会話への抵抗感には大きく違うもの

があると感じました。

ネイティブの先生は授業を楽しむものにしてしまうとさまざまな工夫を凝らしつつ、きちんと課題やテストを課して学生を鍛えてくれます。2年のSセメスターで取る上級の授業はなかなか高度ですが、苦しみながらもロシア語の論文を読んだりしていると「1年間で辞書の力を借りればこれが読めるところまでできたのか」と感慨深くなります。

2年次夏季の海外研修では、単なる言語学習にとどまらない文化の学びが待っていました。ロシアの豊かな音楽に浸ったり、ロシア人学生が

文科三類・2年 高橋 祐貴 (2018年度)

日本のポップカルチャーや天皇制に興味を持っていることを知ったり、宇宙開発の歴史を見たり、ロシアにおける戦争の記憶の継承に触れたり。その学びは分野横断的で、自分のロシアに対する印象を大きく変えていきました。想像以上に優しかったロシアの人々と会話することは、語学へのモチベーションも大きく高めてくれます。

多少きついこともありますが、ロシア語を学びたいのであれば受講して後悔することはありません。積極的な受講をおすすめします。



# 韓国朝鮮語

## TLP授業の POINT

言葉がうまくなることはもちろんですが、言葉を使って多様な人々とコミュニケーションし、協働する力を養うことが目標です。

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 三ツ井 崇



### [Profile]

朝鮮近現代史の専門で、とくに19世紀後半以降現代までの言語や文化の問題を政治史・社会史と関連づけて考えています。例えば、「韓流」以前の朝鮮半島の文化がどのように形成、受容されてきたかを調べることで、現代の交流と葛藤の意味が見えてきます。

今日、日本と大韓民国（韓国）・朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）との関係は、交流ないしは葛藤の局面にあり、しかも朝鮮半島情勢は世界規模の関心事となっています。日韓間の人の往来も普通になり、韓国の歌や映画も身近なものになりました。けれども、日本で韓国朝鮮語ができる人はまだまだ少数です。

一方、昨今の東アジア情勢を見ると、地域の持続的発展を考えていく際には、グローバルな視点とともに、朝鮮半島の持つローカルな特性に対する深い理解が求められます。TLP韓国朝鮮語は、一定レベルの英語能力を持つ学生が1年次、2年次に集中的に韓国朝鮮語を学習することによって、高度な韓国朝鮮語能力を身につけるとともに、日本と朝鮮半

島が位置する東アジア地域を足場に、グローバルな課題に取り組む人材となることを目的としています。

TLP韓国朝鮮語では、基礎科目（必修）の初修韓国朝鮮語一列、二列はクラスごとの通常授業を受講します。それ以外にTLP用の演習と初級インテンシヴ2コマ、計3コマを受講し、より高度な能力を身につけます。2年次の5 SemesterでもTLP用の演習と中級インテンシヴ2コマを受講した後、夏休みを利用してソウル大学で語学研修を行います（3週間）。語学研修では語学学習のほかにソウル大生とともにフィールド・ワークなどの現地体験も行いますので、韓国朝鮮語を実際に使いつつ、韓国の社会や文化について学ぶ機会となるでしょう。



### 受講生の声

アットホームな雰囲気です、楽しく韓国語を身につけることができました

僕はもともと、九州出身ということもあって韓国語が身の回りで多いと感じており、韓国語が少しでもできるようになれば面白そうだと思って韓国語を選択しました。TLPを履修したのは単にその資格があったからで、負担が増える、ということはありませんでした……。

実際、取ってない人に比べて3コマほど増えるので大変ではありましたが、TLPを修了して、駒場の一年半を振り返ってみると、授業の中ではや

はり韓国語TLPの時間が一番充実していました。韓国語TLPの授業は1週間のどの授業よりも楽しかったですし、本当は駒場で数学や理科を主に学ばなければならないような気もしますが、駒場の教養の授業の中で一番得るものがありました。

これらの理由の大きな要素として挙げられるのは、やはり人数が少なかった、ということにあると思います。履修者の人数は時々変わりましたが、5人くらいしかいなかったのも、先生もアットホームな授業をしてくださり、僕たちが理解できるまで説明を繰り返してくださいました。生徒同士も仲良くなり、みんなでよくサムギョブサル

理科三類・2年 岡元 慎吾（2019年度）

を新宿に食べに行っていたのが懐かしいです。課題やテスト勉強は結構大変でしたが、授業も分かりやすかったので韓国語がどんどん身につけていくのが楽しかったです。

一年半韓国語を学習して、ペラペラになったわけではもちろんありませんが、韓国語の放送が少し聞き取れたり、韓国語の案内が意外と読めたりするようになりました。自主的にはここまで勉強しないはずなので、僕に韓国語を学ぶ機会を与えてくれたTLPと韓国語を分かりやすく、楽しく教えてくださった優しい先生方に感謝しています。

### 取得すべき単位数

（Semesterごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているとみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない）

科目名	1年		2年
	S Semester	A Semester	S Semester
基礎科目 一列・二列 <sup>※1</sup>	4	2	-
総合科目 演習（TLP用） <sup>※2</sup>	2	2	2
総合科目 初級インテンシヴ（TLP用）	4	4	4
取得すべき単位数	10	8	6

※1 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

※2 理科生の演習は任意選択であり、取得すべき単位数は合計6単位少ない



文化体験

# スペイン語

## TLP授業の POINT

スペイン語圏には日本にはない魅力があると思っ  
ているみなさん、  
本当にそうなのか確かめてみませんか。

大学院総合文化研究科・国際社会科学専攻 受田 宏之



### [Profile]

メキシコを主なフィールドに、先住民問題やインフォーマル経済、農村開発などを研究してきました。経済学で捉えきれないことに関心があります。

スペイン語を学ぶ最大の喜びは、様々な国や地域の文化と歴史を深く知ることができるようになり、そこに住む多様な人びとと友人になれることです。英語に加えてスペイン語を操れるようになれば、アメリカ合衆国への理解も深まることでしょう。

2019年度より、スペイン語のTLPが導入されました。他の言語が培ってきたノウハウを参考にしながら、独自のプログラムを築いています。そうすることで、これまでの日本に欠けていた、発想が自由で開放的なリーダーの養成に貢献していくことが究極の目標となります。

TLPの受講生は、「スペイン語初級一列、二列」の必修授業で共通教科書『スペイン語学習の羅針盤Brújula』を使って文法と表現の基礎を習得するほかに、計週3コマの「演習」と「インテンシブ」の授業を受ける必要があります。「演習」と「インテンシブ」の授業は、原則としてスペインとラテンアメリカ出身のネ

イティブ教員が担当し、文学や歴史など各々の教員の専門性を生かした実践的かつ高度な内容となります。2年生の夏休みには、スペイン語圏のいずれかの国を訪れ、観光的な要素を合わせ持ちつつもスペイン語漬けの生活を送るという「TLP研修」の機会が設けられます。

私自身は、隔年で「国際研修」の授業を担当し、後期課程を含む参加学生とメキシコを訪れ、現地の大学生や日系企業、マヤ農民らとの交流を促してきました。また、「SKYPEを用いたUNAM（メキシコ国立自治大学）学生との初級会話」、留学生との「スペイン語でしゃべらんち」にもかかわってきました。このほかにも、ラテンアメリカの音楽演奏クラブ等、スペイン語に関連した様々なプログラムや活動が東京大学には存在します。TLPの導入は、それらと刺激し合いながら、スペイン語教育の活性化をもたらすものと確信しています。



アンデスの農村



バナナの葉の蒸し焼き料理を準備するマヤ農民



スペイン、ラ・マンチャ地方の風車

### 取得すべき単位数

(セメスターごとの入れ替えの際に一定のレベルを満たしているときみなされて新しく編入される学生についてはこの限りではない)

科目名	1年		2年
	Sセメスター	Aセメスター	Sセメスター
基礎科目 一列・二列※	4	2	—
総合科目 演習 (TLP用)	2	2	2
総合科目 初級インテンシブ (TLP用)	4	4	4
<b>取得すべき単位数</b>	<b>10</b>	<b>8</b>	<b>6</b>

※ 通常の一列・二列の学生と一緒に受講

# 後期TLPについて

後期TLPは、中国語（日英中のトライリンガル）のみ2015年度から実施してきましたが、2020年度からは、「東アジア教養学」プログラムにアップグレードして新規開設することになりました。これは、前期TLP修了者と同等（もしくはそれ以上）の言語スキルを持つ学生を対象に、「東アジア発のリベラルアーツ」形成を旨とする北京大学とのジョイントプログラムです。北京大学との交換留学を組み込み、言語的背景の異なる学生がいっしょに同じテキストを読みながら、問いを開く学問を築くことを目指しています。

「東アジア教養学」では、英語、中国語、日本語を使用言語とする授業を常に関講しています。所定単位を取得することによって、「東アジア教養学」の修了資格を得ることができます。また、共通外国語では、中国語の上級会話、上級講読といった授業が、前期TLP修了生もしくはそれと同等以上のレベルを有する学生全体を対象に関講されていて、中国語の更なるブラッシュアップをめざす学生の誰もが履修できるように設計されています。





# TLPの英語

トライリンガルの一翼を担う英語ですが、その教育プログラムは英語一列、英語二列、総合科目L系列で構成されています。TLPに特化したクラスはありませんが、TLP履修生は英語のみで授業を行うクラスで英語一列を受講します。

## 英語一列（必修）：教養英語

教養学部英語部会が英語学習のために作成した『教養英語読本Ⅰ・Ⅱ』と、これに関連したリスニング教材を使用して行う授業です。文科生、理科生を問わず大学生の知的関心に応じた高度で分野横断的な内容を英語で理解する力を養います。授業は習熟度別クラスで行われます。TLP履修生は、内容理解の他に作文やディスカッションなどの発展的作業をすべて英語で行う20名程度のクラスで授業を受けます。

## 英語二列（必修）：ALESS、ALESА、FLOW

ALESS、ALESА、FLOWは発信力に重点を置く科目です。15名程度の少人数クラスで、英語だけで授業を行います。

ALESS（Active Learning of English for Science Students）では、理科生が、自ら設計した実験を行って、その結果に基づいて科学論文を書くことを学びます。一方、ALESА（Active Learning of English for Students of the Arts）では、文科生が、先行文献を調べ、それを適切な形で援用しながら説得力のある人文・社会科学系の論文を書くことを学びます。

FLOW（Fluency-Oriented Workshop）は、研究成果について英語で口頭発表したり、論理的な議論を展開したりできるような流暢なスピーキング力を鍛える授業です。自己診断に基づく習熟度別クラス編成を採用しています。

## 総合科目L系列（選択必修）

中級クラスと上級クラスが設けられています。多彩な内容のクラスから各自が選択することができますが、「英語上級」は20名程度のクラスで、英語圏の大学で専門科目の授業を受講できるレベルの英語力を念頭に置いた授業を行います。





## Trilingual Program

©2020 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属 グローバルコミュニケーション研究センター